

トマトの灰色かび病の発生が多い ～果実被害を防ぐため、防除対策に努めましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

8月中旬の巡回調査（全県4地点）における灰色かび病の発病株率は34.6%（平年7.5%）で高かった（図-1）。

8月25日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。

また、今後は、昼夜の気温差が大きくなり、株に結露が生じやすくなる。

以上のことから、灰色かび病の発生に好適な条件となるため、被害の拡大が懸念される。

2. 防除対策

- 1) 施設内が多湿であり、特に葉や果実が結露で濡れている場合は発生が多くなるため、朝方早めの換気に努める。
- 2) 葉先枯れ等の枯死した部位は発病しやすいため、既に発病した部位とともに直ちに除去し、ほ場外で処分する。
- 3) ベルコート水和剤、セイビアーフロアブル20などの薬剤にゲッター水和剤、ジャストミート顆粒水和剤などの治療効果がある薬剤を組み入れローテーション散布を行う（表-1）。
- 4) 耐性菌の出現を回避するため、同一のRACコードの薬剤は連用しない。特にRACコードが1、2の薬剤は耐性菌が確認されているので、薬剤の選択に注意する。

3. 資料

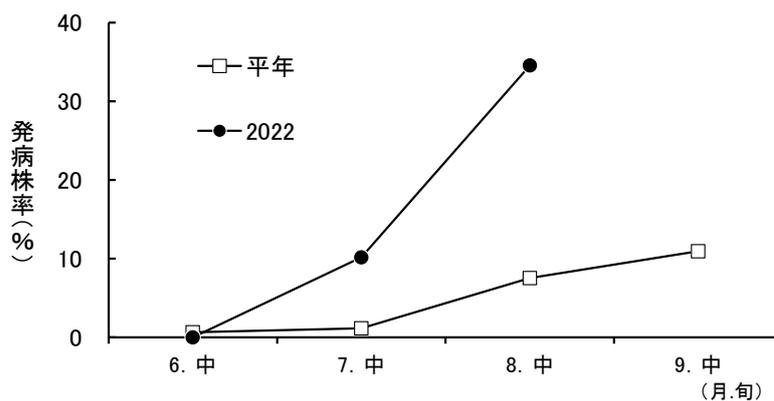


図-1 巡回調査における灰色かび病の発病株率の推移

表-1 灰色かび病の防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	使用回数	各成分の 総使用回数
NC	カリグリーン	800倍	—	—
10・1	ゲッター水和剤	1,000～1,500倍	5回以内	アイ
10・2	スミブレンド水和剤	2,000倍	3回以内	イオ
2	ロブラール500アクア	1,000～1,500倍	3回以内	カ
2	ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	3回以内	カ
17・12	ジャストミート顆粒水和剤	2,000倍	3回以内	ウエ
M7・17	ダイマジン	1,500倍	3回以内	エキ
9	フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	4回以内	4
M7	ベルクート水和剤	3,000～6,000倍	3回以内	キ
M7	ベルクートフロアブル	2,000倍	3回以内	キ
12	セイビアーフロアブル20	1,000～1,500倍	3回以内	ウ

ア:チオファネートメチル(6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内))

イ:ジエトフェンカルブ(6回以内)

ウ:フルジオクソニル(4回以内(種子への処理は1回以内、散布は3回以内))

エ:フェンヘキサミド(3回以内) オ:プロシミドン(3回以内)

カ:イプロジオン(4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)) キ:イミノクタジン(3回以内)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>